

資源評価調査委託事業（全体）

柳谷 智・伊藤欣吾・三浦太智・兜森良則^{*1}・小泉広明・清藤真樹・佐藤晋一^{*2}

目 的

日本の周辺海域で利用可能な魚種の適切な利用と保護を図るため、科学的客観的根拠に基づいて資源評価を行うために必要な関係資料を整備する。

材料と方法

1 漁場別漁獲状況調査

対象漁業：日本海ベニズワイガニかご漁業（新深浦町漁協岩崎支所）

調査方法：漁獲成績報告書

2 生物情報収集調査

対象地区：県内 43 漁協及び八戸魚市場

対象魚種：（太平洋）スルメイカ、ヒラメ、スケトウダラ、マダラ、マイワシ、マサバ、カタクチイワシ、キチジ、イトヒキダラ、ズワイガニ、ヤナギムシガレイ、サメガレイ、ゴマサバ、マアジ、キアコウの計 15 魚種

（日本海）スルメイカ、ヒラメ、スケトウダラ、マダラ、マイワシ、マサバ、マアジ、マガレイ、ハタハタ、ブリ、ベニズワイガニ、アカガレイ、ニギス、ホッケ、ホッコクアカエビ、ヤリイカ、ウルメイワシ、カタクチイワシ、ムシガレイ、ソウハチの計 20 魚種

調査項目：漁獲量及び漁獲金額（両項目とも月別、漁業種類別、銘柄別）

調査方法：電子データの収集

3 生物測定調査

対象地区：4 漁協（新深浦町、鰯ヶ沢、外ヶ浜、八戸みなと）及び八戸魚市場

対象魚種：ヒラメ、スルメイカ、キチジ、マアジ、マイワシ、カタクチイワシ、マサバ、ブリ、マガレイ、ハタハタの計 10 魚種

調査項目：体長、体重、性別、生殖腺重量

調査方法：標本買上げ

* 上記の他に新深浦町漁協岩崎支所にてマダラの体長測定を実施。

4 資源動向調査

小泊～大間越漁協のウスメバル、ヤナギムシガレイ及びマダイの漁獲量調査を実施。

5 漁場一斉調査

試験船によりスルメイカ、ハタハタの漁獲調査を実施。

*1 青森県東青地域県民局地域農林水産部青森地方水産業改良普及所

*2 地方独立行政法人青森県産業技術センター内水面研究所

発表誌：平成 23 年度我が国周辺水域の漁業資源評価（魚種別系群別資源評価ダイジェスト（要約）版）。

水産庁・水産総合研究センター、平成 24 年 2 月

6 新規加入量調査

日本海側のつがる市沖において桁網(水工研Ⅱ型、目合 6mm)を用いてヒラメの新規加入量調査を実施。

7 沖合定線観測

太平洋と日本海の沖合定線観測を各 4 回実施。

ノルパックネットによる卵稚仔等採集、クロロフィル分析も実施。

結 果

各調査結果を(独)水産総合研究センターへ報告し、(独)水産総合研究センターはそのデータを資源評価に供した。

また、青森県主要魚種であるヒラメ、カレイ類、マダラ等の資源評価結果は「未来につなぐ資源管理 2012 年版」として報告した。漁獲量の水準が高位であった魚種はヒラメ(津軽海峡、陸奥湾、日本海)、ムシガレイ(日本海)、マダイ(日本海)、低位であった魚種はマガレイ(日本海)、マダラ(陸奥湾)、ヤリイカ、ミズダコ(津軽海峡)であり、漁獲量が増加傾向にある魚種はムシガレイ(日本海)、マダイ(日本海)、減少傾向にある魚種はヒラメ(太平洋)、ハタハタ(日本海)、キアンコウ、ヤリイカ、ミズダコ(津軽海峡)であった。

主要魚種であるヒラメ、マガレイ、ハタハタ、浮魚、スルメイカに関する調査結果及び沖合観測結果については別途報告する。